

久喜市栗橋

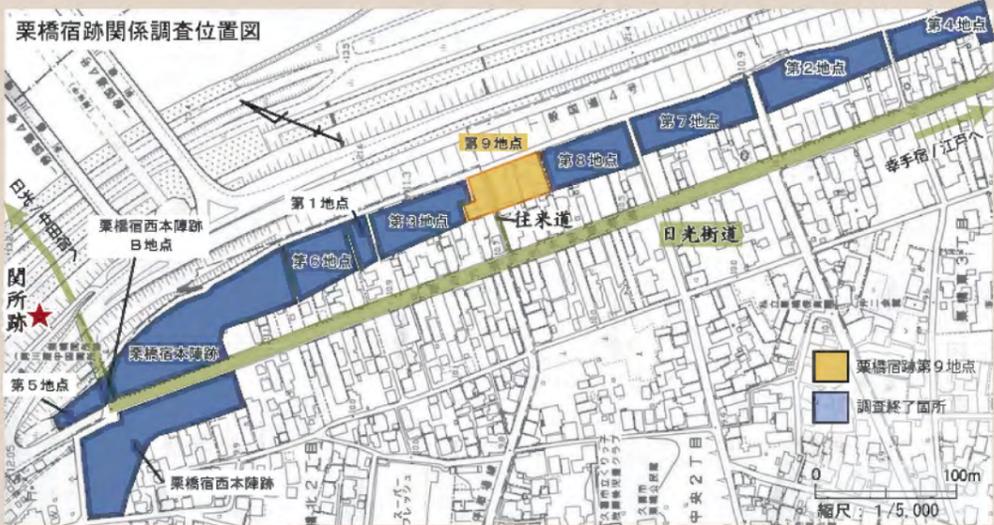
くりはししゆくあと

日光道中

栗橋宿跡

宿場のくらしを掘る

—江戸時代後期の栗橋宿の生活と文化—



現代の地図と表紙の絵地図を見比べてみましょう。宿場の端で道が折れているところや、街道沿いの区画は細長い短冊状に並んでいます。これは、江戸時代からの街道と宿場町の名残です。

公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団では、首都圏氾濫区域堤防強化対策工事に伴い、久喜市栗橋の日光道中栗橋宿の発掘調査を実施してきました。これまでに、宿場跡をはじめ、番士屋敷跡、本陣跡、西本陣跡の調査が行われてきました。現在は、栗橋宿跡第9地点で江戸時代後期の生活面（第二面）を調査中です。

遺跡からは食器や炊事道具だけでなく、羽子板やサイコロ等も出土しています。

今回の調査では、道路跡も調査の対象となっています。道路面には、たび重なる災害の都度、整地を繰り返した痕跡がみてとれます。人とモノの行き交う街道の賑わいをささえた、栗橋宿の人びとの暮らしのリアルな一端をご紹介します。

主催 公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団
 共催 国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所
 埼玉県教育委員会・久喜市教育委員会

栗橋宿跡第9地点 第二面

① 火災の後片付けは分別して処理？

第248号土壌

焼けた瓦ばかりがぎっしり詰まった土壌です。隣接して焼土と炭化材主体の土壌も検出されました。火事の後始末にもルールがあったのでしょうか。



③ 井戸の下にはまた井戸が！

コンクリート製の井筒を持つ井戸の下層には、大きな底抜きの樽を使ったと考えられる古い井戸が見つかりました。



④ 竹樋(たけひ)と木製の継手(つぎて)

道路の脇や家々の境界に沿って、出土しました。竹の節を削りぬいた管が、木製の継手(ジョイント)でつながれた導水施設(水道管)です。



⑥ 鮮やかな赤黒の輝き

第368号土壌

赤・黒・茶色など、バリエーション豊かな漆器の椀や蓋がたくさん出土しました。器の表面や見込みに模様の描かれた製品も出土しています。



⑧ 折り重なるように竹と木が…

第414号土壌

細い竹材と丸木材が大量に折り重なって出土しました。漆喰(しっくい)や壁土片は付着していないため、屋外の垣根などに用いられた材なのかもしれません。材とともに土壌を埋めているのは洪水によって運ばれてきた土砂です。材と材の合間には、漆器椀や陶磁器片、石臼片なども一緒に埋まっていました。



凡例

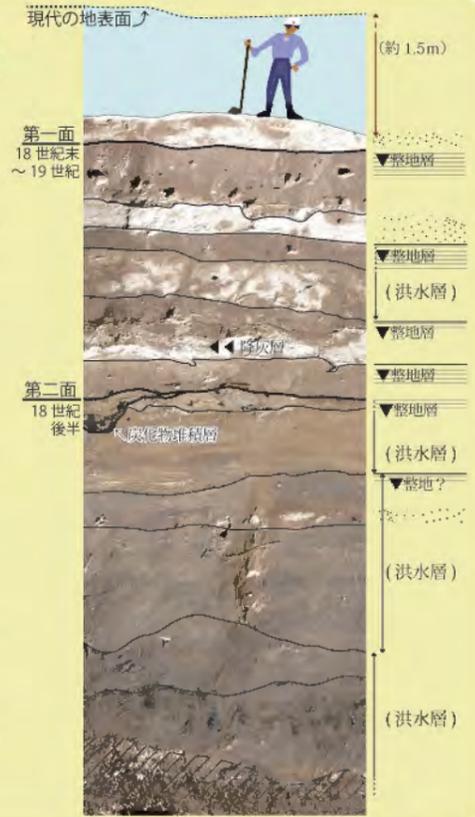
- 道路跡
- 井戸・竹樋(導水・取水施設)
- 土壌(火災廃棄物主体)
- 土壌(建材等主体)
- 土壌(生活材主体)
- 新しい時代の掘削範囲(攪乱)

⑤ 断面は重なる復旧の記録

第1号道路跡

日光道中から、利根川の土手方面へと抜ける「往来道」の跡です。現在の地表面から1.5m掘り下げた、第一面(幕末から明治時代にかけての生活面)から、第二面(江戸時代後期の生活面)までに、

- ・浅間山の噴火による降灰層(図中◀◀)
- ・洪水で運ばれてきた土砂が堆積した層(図中↔の範囲)
- ・近隣で火災等に由来する炭化物の堆積層(図中への層)があり、その間には、地面を均して整えたと考えられる整地層が複数枚観察されます。



⑦ 竹樋の先には大きな樽が！

竹樋と接続された大樽です。竹樋をつなげる穴は対面に2箇所、異なる高さに開けられています。この樽は、水に混じる砂などを沈めるために使用されたものです。



⑨ 土の下には木製品の山

第496号土壌

木製品がまとめて廃棄された土壌です。桶や樽、曲物、くるり棒、櫛などがあります(写真左)。最も下の層からは、屋根葺材の可能性がある樹皮の束も出土しています(写真右)。

